

# 不満談話シーケンスの開始部における共通基盤化

Marina Bahaa Rafla Asad, 4 回生, 文学研究科

## 1. 研究背景

不満表明は、そもそも他者の感情を害するリスクがあり、会話参与者間の社会的な人間関係を対立させる恐れもあるため、誰しもがなるべく回避したいものである。しかし、不満発話者は不満の原因となる問題点に対する自分自身の〈注意〉、不満状況に関する自分自身の〈知識〉、又は不満状況に対する自分自身の〈評価〉が相手と一致しないという不均衡な状況下でそれらを共通させたい場合に、不満表明が行われるのではないかと考えられる。

## 3. 研究目的

本研究では、不満発話者と不満の受け手の双方の発話行動がどのようなパターンによって展開され、両者の間の共通基盤の構築過程（＝共通基盤化）によってどのように影響されるのかを解明することを目的とする。

## 4. 研究方法

### 4.1分析データ

不満のターゲットと対話相手が一致する場合に行われる「直接的不満表明」に焦点を当て、不満の状況が会話参与者間で不満談話開始時に共有されている場合（研究者が収集した日本語のロールプレイデータ18例の場合）と、共有されていない場合（『日本語日常会話コーパス』から抽出した不満対話データ2例の場合）とを比較し、不満談話シーケンスの開始部におけるやり取りが、共有の度合いによってどのように影響されるのかを明らかにする。

## 2. 先行研究

これまでの不満談話に関する先行研究では、不満談話において、聞き手が、①不満のターゲットである場合 (Monzoni, 2009) と、②第三者である場合 (Drew and Walker, 2009; Traverso, 2009) と、③対話の場にいる非宛て手 (unaddressed recipient) の場合 (Laforest, 2009; Heinemann, 2009) のいずれであっても、不満の発話者に対して同意するか否かという問いを考察する傾向があった。その結果として、聞き手が選択した行為の背景に「参与枠組み (participation framework) (Goffman, 1974; 1981)」や、会話参与者間の人間関係や場面設定などという基盤が存在することが明らかとなったが、それ以上の深い考察には至っていない。しかし、聞き手の同意と不同意の行動の背景には、「参与枠組み」よりも、会話参与者間で共通基盤が確立されているかどうかという現象の方が大きく関わっているのではないかと考えられる。

## 4. 研究方法

### 4.2分析手法

#### A. 不満談話シーケンスの構成の分析手法

ロールプレイデータをもとに、先行研究を参考にしつつ整理した不満表明とその応答の発話機能「不満表明とその応答のコア要素」(Asad, 2020)を使用する。

#### B. 共通基盤化の処理の分析手法

Kecskes & Zhang (2009) によって提唱された「社会認知的アプローチ」[Socio-cognitive Approach(SCA)]における「共通基盤(Common Ground)」の概念を採用する。

## 5. 結果と考察

その結果、会話参与者間で不満状況が共有されている時と、そうでない時の大きな違いとしては、会話参与者が確立しようとしている共通基盤のレベルが異なることが明らかとなった。すなわち、ロールプレイデータでは、不満談話開始時にすでに会話参与者間で不満状況にいたることが共有されているため、〈共有知識〉(shared knowledge) による共通基盤を会話の冒頭で確立しようとする。一方、雑談しつつ生じた不満状況のような日常会話データの場合、不満発話者が自身の不満動機に対して不満の受け手の注意を向けさせようとする。こうした日常会話における不満談話の開始部の構造の背景には、不満の発話者が、自身の不満動機に対する〈共同注意〉(joint attention) を不満の受け手に要求する傾向があると考えられる。

## 6. 今後の課題

今後の課題として、対話全体の過程において共通基盤化がどう処理されるのかを分析することを目指し、日常会話データの数を拡大し、会話参与者の発話に見られた不満表現の言語形式的な観点からの分析も行うことで、より明確な不満談話の特徴を明らかにしたいと考える。

## 7. 参考文献

- Kecskes, I. and Zhang, F. (2009). Activating, seeking, and creating common ground: A socio-cognitive approach. *Pragmatics & Cognition* 17(2): 331-335.
- Laforest, M. (2009). Complaining in front of a witness: Aspects of blaming others for their behaviour in multi-party family interactions. *Journal of Pragmatics* 41(12): 2452-2464.
- Monzoni, C. M. (2009). Direct complaints in (Italian) calls to the ambulance: The use of negatively framed questions. *Journal of Pragmatics* 41(12): 2465-2478.